

40 年 の あ ゆ み

1995



徳島県果樹試験場



本 館



本 場 全 景



序

徳島県知事

藤 寿 穂

徳島県の果樹に関する試験研究機関である果樹試験場は、昭和28年に創設されました。

その後、今日まで社会経済情勢の変化は目ざましいものがあり、本県の果樹農業も数多くの新しい技術の開発・導入が行われ、生産の効率化が図られてまいりました。

このような時期に当試験場は、常にその中心的役割を担い、多くの研究成果をあげ、本県果樹農業の発展に大きく寄与してまいりました。

また、農業技術習得の場として数多くの優秀な人材を送り出し、現在、県下各地で技術指導者として、また、農業者として活躍されているところであります。

本県の果樹農業は、オレンジ・オレンジ果汁の輸入自由化により、大きな影響を受けてきましたが、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意により、ますます国際競争力のある産地づくりが求められております。

このような状況の中で、本県果樹農業が今後とも安定的に発展していくためには、これまで以上に良質で低コストな果実の安定供給が望まれております。このため、安全性や機能性等にも配慮した技術の革新がなによりも急がれており、当試験場の使命はますます重大となっております。

ここに、創立40周年を記念して本誌を発刊するに当たり、これまでの輝かしい業績を築き上げてこられた諸先輩方に対しまして心から敬意を表しますとともに、多くの関係者の御支援・御協力に対し厚くお礼申し上げます。これまでに蓄積した技術基盤を最大限に活かしながら、今後とも時代の要求に即応した試験研究を推進し、本県果樹農業のさらなる発展に貢献してまいりたいと考えております。

平成 7 年 3 月



発刊のことば

徳島県果樹試験場長 和田 英雄

昭和28年の県議会で果樹試験場建設3カ年計画案が承認され、転石と雑木林の中に敷地が造成され、農事試験場からは生比奈柑橘試験地・大山果樹試験地の移管を受けて、昭和30年に業務を開始して以来40年の歳月が流れました。

顧みますと、「果樹試験場10年の歩み」として小冊子が編まれたのは、農業基本法の制定後間もない頃のことと、県南のミカンを中心に県北・県西部にもハッサクや種々の落葉果樹が急速に増殖され、技術習得のための練習生が最大多数在籍していて、果樹農業の前途は洋々と開けていた頃でありました。しかしながら、増反につぐ増反で生産量は急増し、量から質への転換が叫ばれるなかで、昭和47年にはミカンの生産過剰から価格の大暴落を招き、県下の果樹栽培面積も昭和50年をピークに減少へと転ずることとなりました。

全国的にも稀なユズ台温州ミカンの産地として発展を遂げて来たのでありますが、高品質志向の高まりと昭和52・56年の相次ぐ寒波による枯死を契機として、そのことごとくがカラタチ台に転換され、高糖系ミカンへの改植や高接ぎ更新も次第に進んできております。

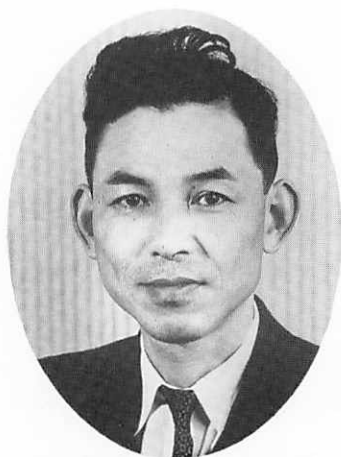
とはいえ、国際化時代に伴う輸入果実の増大や、食生活の多様化による果実消費量の大幅な減退、さらにはバブル崩壊後の長引く不況感からの買い控えなどもあって市況が低迷するなかで、果樹農業の展開方向が厳しく問われている時代であります。とくに本県の果樹栽培は、その大半が基盤整備の難しい急傾斜に立地していて、規模は零細であり従事者の高齢化によって、その存続が危ぶまれる事態に直面しています。

こうした大変革のときにあたって、ひとまず過去の研究業績を整理し、その反省と活用の上にならなくて、二十一世紀を展望した果樹農業の再構築に向けた技術開発に取り組まなければならないと考え、記念誌を発刊することにいたしました。

時あたかも四国縦貫道の一部開通により、徳島県もようやく高速交通時代に突入した記念すべき年であり、またウルグアイラウンドの農業合意を受けて、農産物総自由化への幕開けとなる感慨深い年でもあります。

職員一同、心を新たにして研鑽を深め、本県果樹農業の発展に一層努力してまいりますので、関係各位のご指導・ご支援をお願い申し上げます。発刊のご挨拶といたします。

歴代場長



初代場長
安達義正
〔昭和29年3月1日〕
～44年3月31日〕



2代場長
前田 知
〔昭和44年4月1日〕
～56年3月31日〕



3代場長
宮川経邦
〔昭和56年4月1日〕
～59年3月31日〕



4代場長
中川正視
〔昭和59年4月1日〕
～62年3月31日〕



5代場長
賀川 実
〔昭和62年4月1日〕
～平成2年3月31日〕



6代場長
大和浩国
〔平成2年4月1日〕
～6年3月31日〕

職員写真

草創期
(昭和31年)

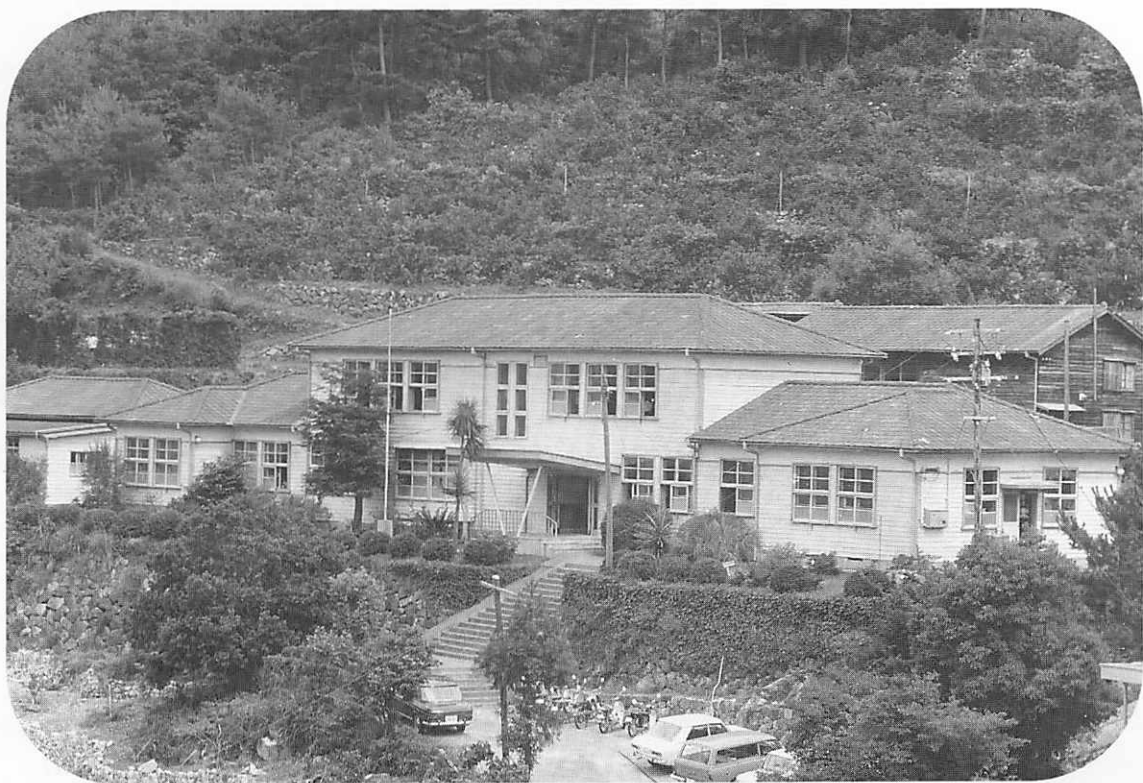


カンキツ産業隆盛期
(昭和40年頃)

現在
(現職員)
(平成6年)



庁舎の移り変り



旧 館 (本 場)



新 館 (本 場)



旧館（分場）



阿讚講堂（分場研修施設）



新館（分場）
（昭和62年5月落成）

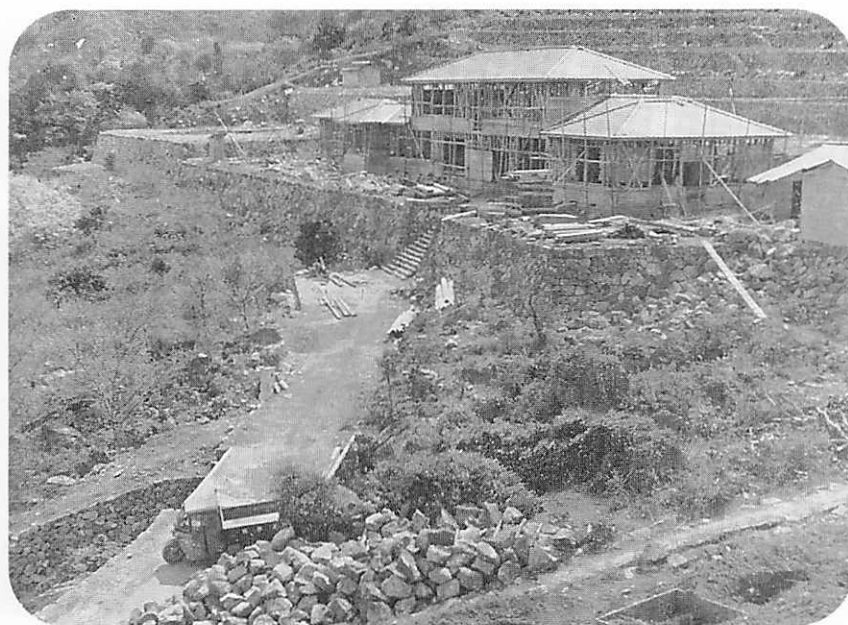
旧岩倉母樹園



開設時の園地造成風景



巨礫累々の中，幾多の労力奉仕によって造成された用地・敷地

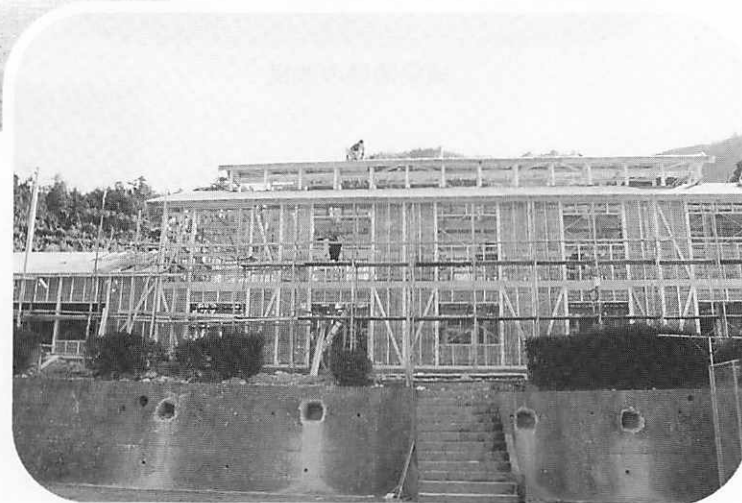
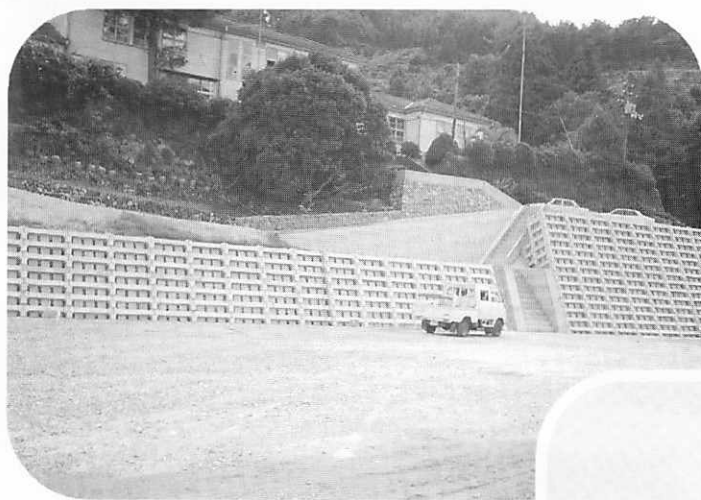


建設中の旧本館

改築時の敷地造成風景（本場）



大型機械によって整然と造成された新館敷地



木造貯蔵庫

改築時の圃場改造風景（分場）



カキ園のごく一部を残し大型機械で平坦化された



新館



傾斜圃場の改良

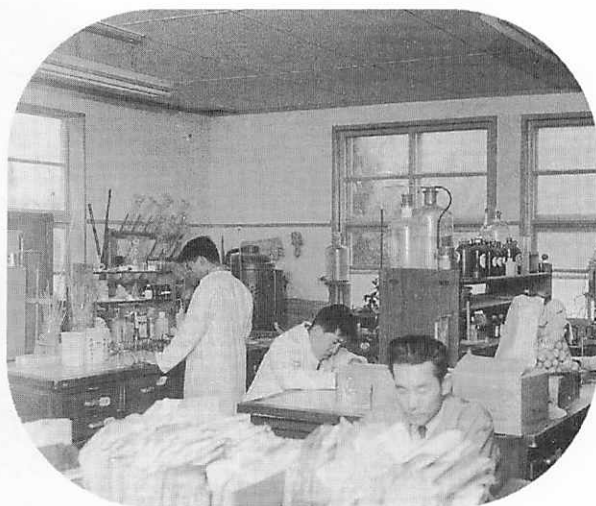


ライシメーター

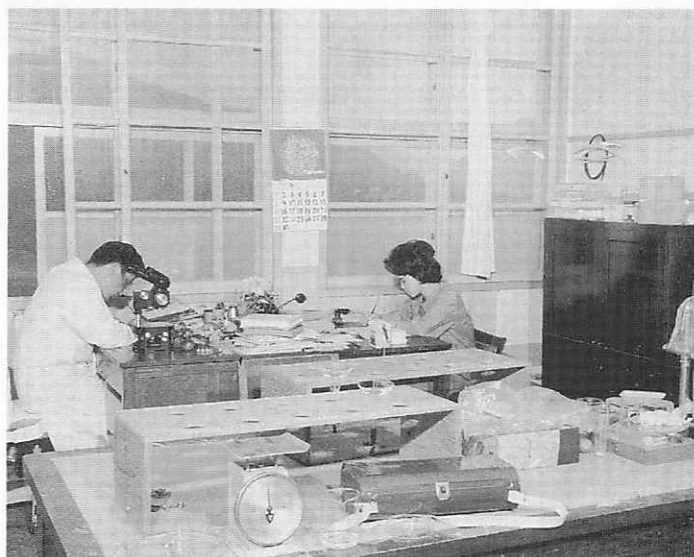
往時の施設・圃場（本場）（昭和38年当時）



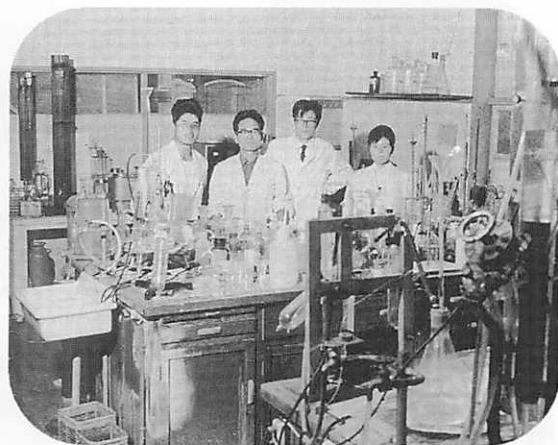
事務室



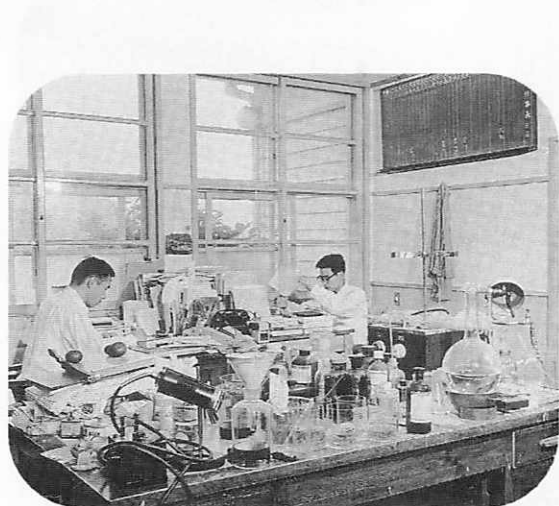
栽培研究室



昆虫研究室



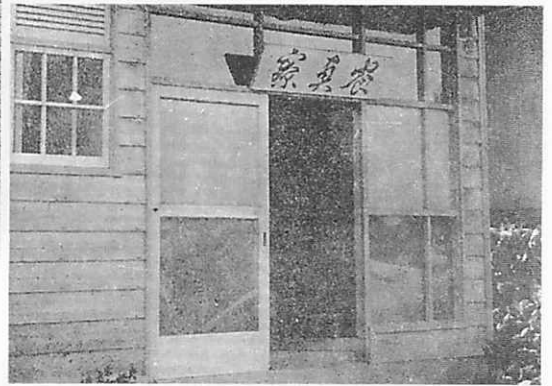
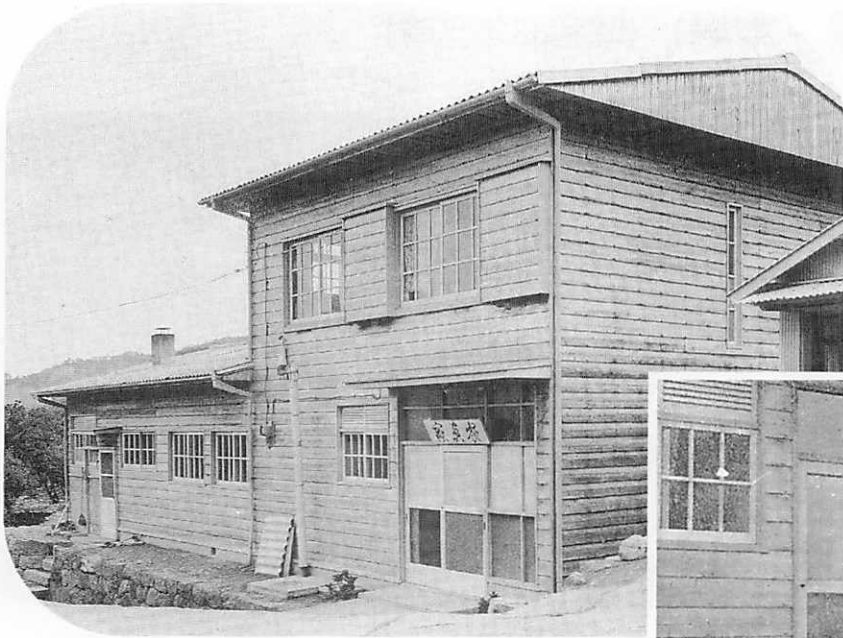
化学研究室



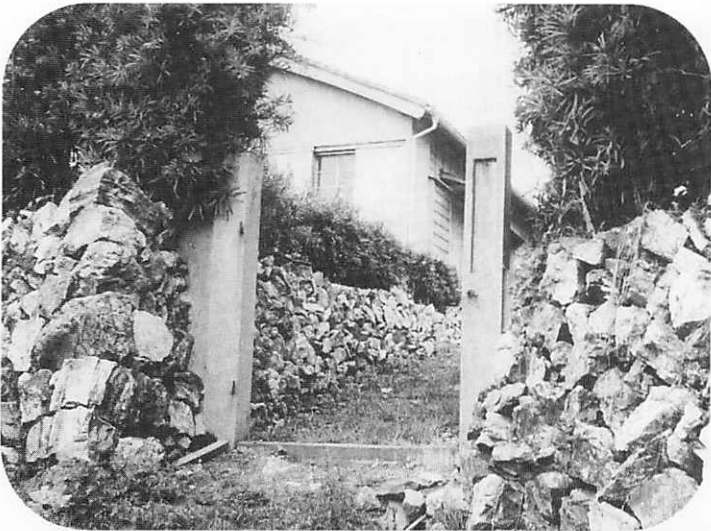
病理研究室



本館への登り道



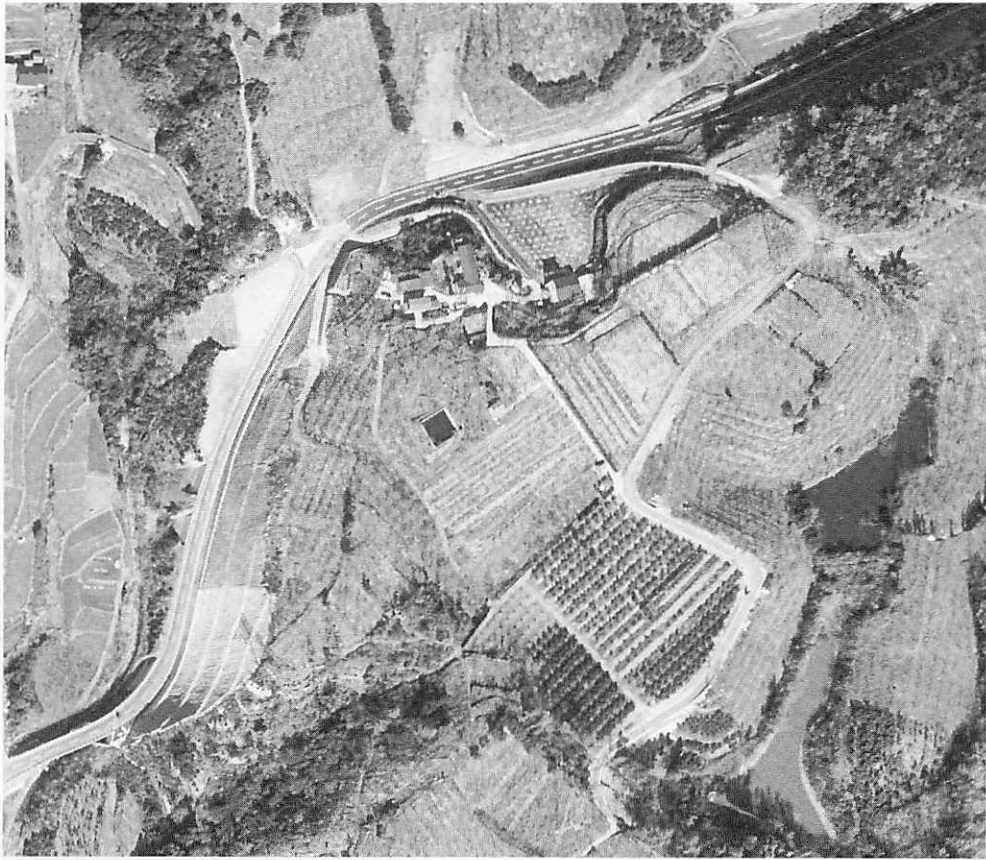
養 真 寮
(練習生寄宿舍)



今 山 圃 場



往時の施設・圃場（分場）



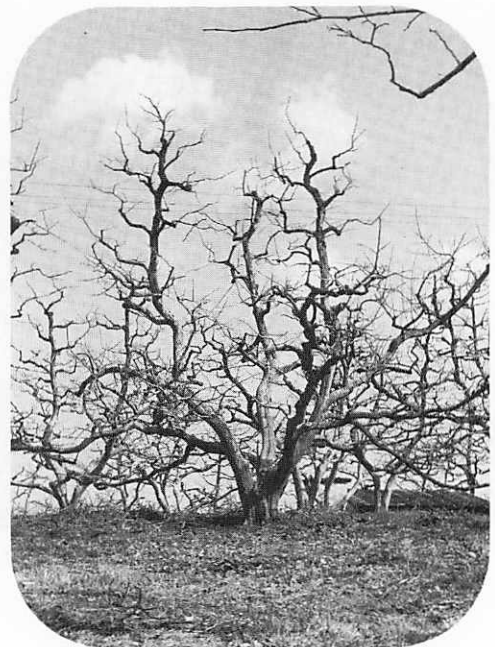
圃場整備前の分場の航空写真



ナシの立体的垣根栽培



スピードブローラーによる防除（昭和53年）



樹齢60年の‘平核無’
（昭和54年）

岩倉母樹園 (昭和36年4月～61年3月)



岩倉母樹園全景 (昭和60年)



県庁庭園に植えられた母樹として活躍してきたスタチ並木
(昭和62年3月)



八朔萎縮病対策試験圃場 (昭和41年6月)

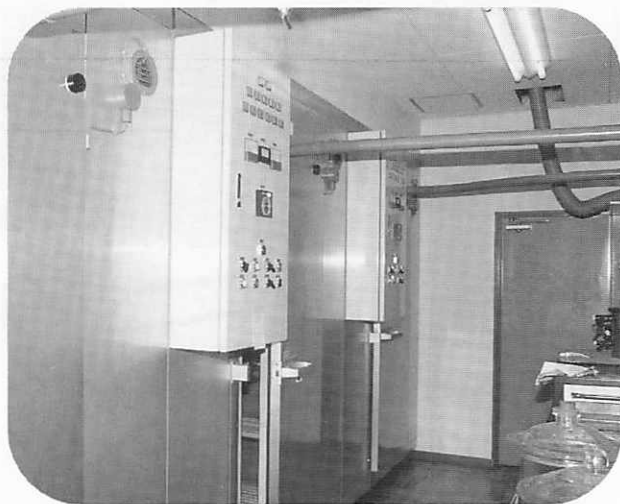


スピード・スプレアーによるハッサク園の除雪
(昭和59年1月)

現在の施設・圃場



栽培生理研究室



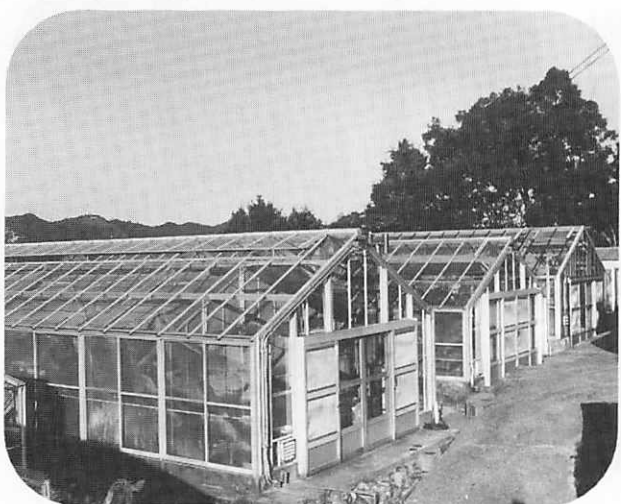
低温貯蔵庫



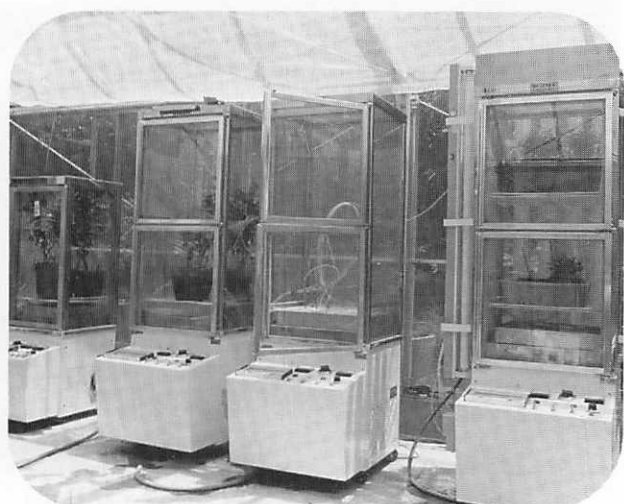
温州ミカン栽培圃場



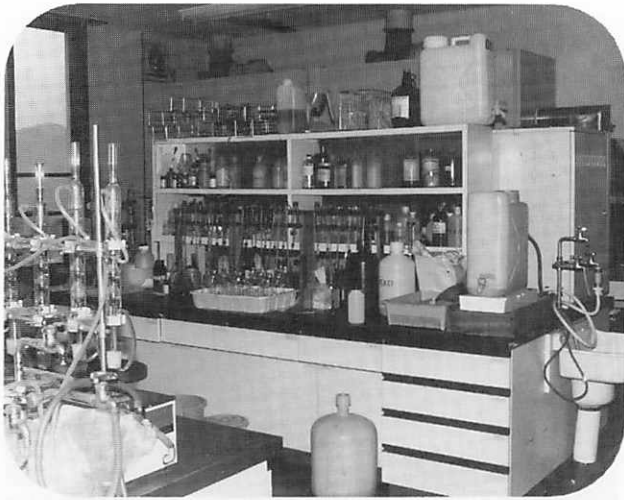
病虫科実験室



病虫科ガラス室



ファイトトロン



化学科実験室



ライシメーターによる高糖系温州肥料試験



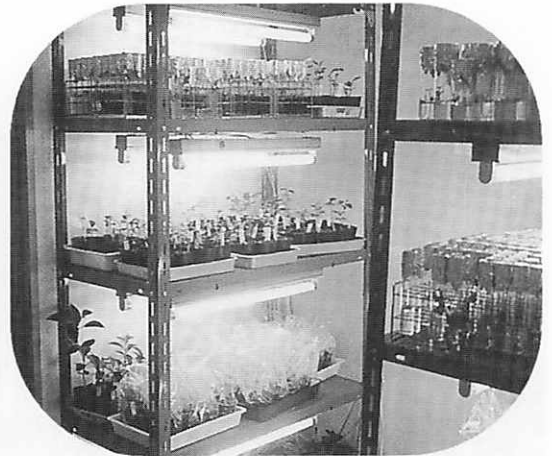
育種用ガラス室



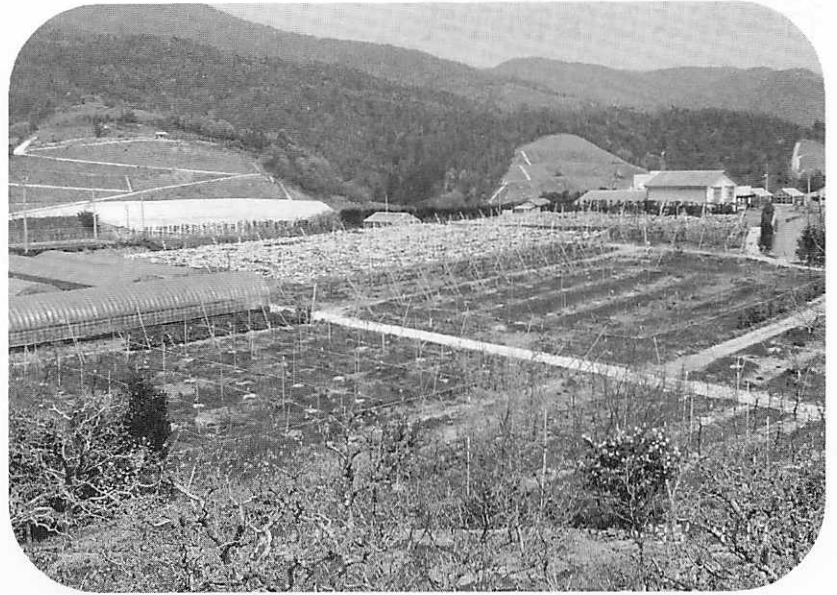
モモのベッド栽培試験



ナシ・モモのネット被覆（防蛾・防鳥用）



香酸カンキツの胚培養と
培養個体の育成



ナシ・ブドウ園



ナシの三角波状棚整枝



板野圃場

行事および催物式典



本館起工式
(昭和56年8月)



本館落成式
(昭和59年7月)





県北分場・本館新築起工式
(昭和60年8月)



県北分場改築落成式
(昭和62年5月)

